

# 言語文化学科

## ドイツ語フランス語圏言語文化コース ドイツ語圏言語文化領域

German Language and Culture

# 言語文化学科

## 英米言語文化コース

English and American Language and Literature

### 英米言語文化コース 2017

このコースの特色は、文学、言語、比較文化など、英語や英語圏の国に関する幅広い分野を網羅していることです。これは、英米言語文化というコース名からもわかるかと思いますが、言わば総合量販店のようなもので、このコースに来れば、英語に関することならなんでも勉強できます。教員の専門分野は、英米文学、言語学、文化人類学、ポストコロニアル文学、比較文化論などです。

学生の皆さんの中には、入学した時点ではなんとなく「英語を話せるようになりたい」と思っている方が多いと思いますが、さらに深く勉強していくと、文学、文法、文化など特定の分野に興味を持つことになり、またこのような分野の知識はほんとうの英語を話そうとする際には必要となります。このコースは、各学生の興味に沿った指導・教育環境を提供できます。

### ドイツ語圏言語文化領域 について

コースの3つの柱は、語学、文学、文化です。研究対象は、ドイツ語そのもの、ドイツ語で書かれた文学作品、ドイツ語が話されている地域の文化です。語学概論、文化論、文学史、テキスト講読といった授業以外に会話のクラスも充実しています。

ドイツ語という明確な足場があるのは心強いことです。ほとんどの人が大学に入学してはじめて学ぶ新たな言語を通して、みなさんの視野は確実に広がるでしょう。

独文は少数者のコースなので、自分のペースで考え、行動したい人には居心地のいいところだと思います。このコースは、テーマをこれと決めたら腰を据えてじっくり取り組める人、留学するともなれば心身ともにタフな人におすすめです。

### 先生の研究

私の出身がニュージーランドなので、ニュージーランド文学を研究しています。ニュージーランドは新しくできた国で、そこで培われた文学も英語で書かれたものとしては新しいものです。研究もそれほどなされておらず、まだまだ文学研究に多くの貢献ができる分野だと思います。特に興味があるのは、Maurice Duggan, Kendrick Smithyman, Sylvia Ashton-Warner, Ronald Hugh Morrieson などの20世紀中ごろのモダニスト作家です。これらの作家は、ニュージーランド内でも各自が生まれ育った地域に根付いた作品を執筆してきました。このような作品が、どのようにポストコロニアル文学全体の中に位置づけられるかに特に興味があります。今後は、右記の作家以外にもニュージーランド出身の作家を考察していきたいと思っています。



准教授  
イアン・リチャーズ 先生

○コースを選んだきっかけ  
はじめは、他のコースとも迷っていましたが、高校のときに英語が好きだったのもあって、最終的にはこのコースに決めました。また、このコースに進んでも、他の迷っていたコースの授業も取れることも、決め手となりました。

○コースでの学び  
英米文学の原文を日本語に訳したりしています。原文を直接読むことで、日本語訳とは異なる解釈ができたり、普段使っていない英語と違ったり、時代独自の言い回しが読めるのはおもしろいです。



3年生  
田中 佳恵 さん

### 田中さんへのインタビュー



教授  
高井 絹子 先生

### 先生の研究

研究対象は2つに大別されます。1つはドイツ語圏の戦後文学。文学は無から生まれるわけではありませんが、言葉を通じて人間で、作品の素材はその人の体験です。人々は自らの体験をどのように整理して言語化し、「文学」とするのか、そのプロセスに興味があります。キーワードは「47年グループ」「インゲボルク・バッハマン」。

もう一つの研究対象は世紀転換期のウィーンです。この時期ウィーンでは、新しい時代への期待と変化への不安がなまじりになり、複雑かつ魅惑的な文化が醸成されるのですが、目下これを、造形芸術、建築、工芸運動をめぐる当時の人々の動向を切り口に考察しています。こちらのキーワードは「ウィーン工房」「モダニズム」です。

### 高山さんへのインタビュー



3年生  
高山 朝美 さん

○コースを選んだきっかけ  
元々童話や物語が好きでした。授業でさまざまな国の物語に触れた結果、一番学んでみたい物語の雰囲気、ドイツ語圏のものだと感じ、このコースを選びました。

○コースでの学び  
今まで近代文学にはあまり興味がありませんでしたが、授業を受けてみて、メルヘンや童話などの昔の物語との「つながり」を感じました。近代のものでも伝説をモチーフにしたものもあれば、新しく創作されたものもあります。それがわかったとき、元々の話はどうなるものだったのだろうと興味湧いてきて、おもしろいと感じています。

○コースの雰囲気・PR  
少人数で、先生や先輩、同期との距離が近く、居心地がよいと感じています。留学をする人も多く、先生や先輩に気軽に聞けるアットホームなところが魅力です。

### 教員紹介

※2019年度時点

高井 絹子 教授 Kinuko Takai  
19世紀末以降のドイツ語圏文学・文化。  
「インゲボルク・バッハマンとウィーン 一観念的な地図の書き換えをめぐる一」  
大阪市立大学大学院文学研究科紀要『人文研究』65 (2014)

長谷川 健一 准教授 Kenichi Hasegawa  
18・19世紀のドイツ語圏の文化・文学。  
共著『ドナウ河 一流域の文学と文化一』(晃洋書房、2011)

### 卒論タイトル例

- ◆『トリストランとイゾルデ』における清い恋
- ◆エーリッヒ・マリア・レマルクについてードイツの失われた世代の作家の実像ー
- ◆心態詞 ja と doch の考察ードイツ語学習に向けてー

### 卒論タイトル例

- ◆“Invisible Man”は未だ見えないのか
- ◆『ティファニーで朝食を』における女性の理想像
- ◆日英否定表現にみられる文化的差異ー「無」の捉え方の観点からー

### 教員紹介

※2019年度時点

杉井 正史 教授 Masashi Sugii  
英国エリザベス朝演劇、特にシェイクスピアの劇  
共著『シェイクスピアー古典文学と対話する劇作家』(松籟社、2014)

田中 孝信 教授 Takanobu Tanaka  
文学テクストと階級・ジェンダー・人種  
共編著『セクシュアリティとヴィクトリア朝文化』(彩流社、2016)

イアン・リチャーズ 准教授 Ian Richards  
New Zealand Literature  
共編著 *Vision Beyond Visual Perception* (Cambridge Scholars Publishing, 2017)

古賀 哲男 准教授 Tetsuo Koga  
アメリカ文学 (黒人詩研究)  
『ラングストン・ヒューズ』(大阪教育図書、2017)

豊田 純一 准教授 Junichi Toyota  
認知科学、歴史言語学、文化人類学  
共編著 *Vision Beyond Visual Perception* (Cambridge Scholars Publishing, 2017)

### ドイツ語圏言語文化領域にとって「物語」とは？

ドイツ語圏にももちろん山のように「物語」はあります。「物語」は、ドイツ語で *die Erzählung*、*das Märchen*、*die Geschichte*、*die Fabel* (寓話)、*das Märchen* (メルヘン)、*die Legende* (伝説) の範疇に属します。「物語」は、「作り話」と同義でとらえられることもしばしばです。しかし、たとえばカフカの『変身』を——作品冒頭、主人公はある朝目覚めると「虫」になっていくのですが——「作り話」で片付けてしまうものでしょうか。なぜなら、なぜ「虫」なのか？と気持ち悪さも我慢して、謎解き気分で作品を読みはじめたが最後、いつしかカフカの術中にはまり、最後には、カフカの眼に映るあるいは彼が体感している彼の「現実」を発見することになるのですから。

「物語」は辛抱強く耳を傾けてくれる相手を探しています。誰かの「物語」につきあうには、現代人にはもはや贅品となった「時間」と人の心理に対する飽くなき好奇心が必要です。(文・高井先生)

### 英米言語文化コースにとって「物語」とは？

英語と英文学は、ヨーロッパ北部の風が強く雨の多い地域で話されていた一言語、ならびにその言語で営まれていた文学でした。それが今や、英語は世界の公用語になり、英米文学も世界を席巻する文学となりました。英語がここまで成功してきた要因には、変動する時代に対する順応性が挙げられます。英語や英国文化は、排他的にピュアであるより他言語文化との交流から多くを得、その結果英語は誰でも接しやすいう言語になりました。このような変遷は、文学における「物語」の展開にも見られます。Daniel Defoe が18世紀初頭に書いた『ロビンソン・クルソー』が良い例です。ロビンソン・クルソーは、無人島で何もない状況から、発想力や適応力を駆使し、そしてときにはもう1人の登場人物 *Friday* からの助けを得て、なんとか満足できる生活を得ました。このような「物語」には、英語を習得したい学生にとって参考になる要素が多くあるかと思えます。

(文・リチャーズ先生)

「恒藤恭(つねとうきょう)」作家・芥川龍之介とは旧制第一高等学校時代からの親友で、その交友は2人の学問や文学に影響を与えたといわれています。